



関西国際空港津波避難計画の一部変更について

関西エアポート株式会社は、2020 年 10 月 1 日（木）より関西国際空港津波避難計画を一部変更することをお知らせいたします。

関西国際空港では、発生の確率が高いとされる東南海・南海地震等による地震とそれに伴う津波から旅客、従業員およびその他空港を訪れる全ての方の人命を守ることを目的とした「地震・津波 BCP」を策定しています。

この度の変更は、2018 年 10 月より実施しておりました第 1 ターミナルビル 4 階及び空港駅 3 階コンコースの「特定天井（※）改修工事」が完了したことを受け実施するもので、当工事により建物の安全性が向上したことで、より安全で早い避難計画の策定が可能となりました。

関西エアポート株式会社は、これからも安全・安心を最優先とした施設の運営に努め、快適で楽しい旅の体験をご提供いたします。

（※）特定天井とは

吊り天井であり、下記のすべてに該当するものをいいます。東日本大震災の後、2014 年 4 月に建築基準法施行令が一部改正されたことを受け、改修工事を実施いたしました。

- ① 人が日常立ち入る場所に設けられている
- ② 高さが 6 m を超える天井の部分で、その水平投影面積が 200㎡ を超えるものを含むもの
- ③ 天井面構成部材等の単位面積質量（天井面の面積の 1㎡ 当たりの質量）が 2 kg を超えるもの

地震・津波 BCP（KIX 版）

http://www.kansai-airports.co.jp/efforts/safety/file/Earthquake_Tsunami_BCP_KIX_jp.pdf

■ 変更点

① 館外避難震度の見直し

（旧計画）震度 5 強以上 → （新計画）震度 6 弱以上



②館外避難場所の見直し

※赤字箇所が変更点

【地震発生時の避難場所】

旧計画（震度 5 強以上）

避難対象者	館外避難場所
第 1 ターミナルビル 一般エリア 1～3 階南側国内線、 南ウイング、南エアライン棟	制限エリア内 (41 番スポット付近)
第 1 ターミナルビル 一般エリア 4 階、3 階トランジットエリア	第 1 ターミナルビル 4 階カーブサイド
第 1 ターミナルビル 一般エリア 1～3 階北側国内線、 北ウイング、北エアライン棟	制限エリア内 (41 番スポット付近)
エアロプラザ、ホテル、空港駅、建設棟、立体駐	P 3（平面駐車場）
一般車両	P 4（平面駐車場）
展望ホール、国内貨物地区、海上アクセス地区	展望ホール駐車場
国際貨物地区、供給処理地区、給油地区	第 1 トラック待機場
第 2 ターミナルビル	P 5（平面駐車場）

新計画（震度 6 弱以上）

避難対象者	館外避難場所
第 1 ターミナルビル 一般エリア 1～3 階、国内線、 南北ウイング、南北エアライン棟	第 1 ターミナル 1 階館外西側（バスレーン）
第 1 ターミナルビル 一般エリア 4 階、 3 階国際線出国エリア(本館)	第 1 ターミナル 4 階カーブサイド
エアロプラザ、ホテル、空港駅、建設棟、立体駐	P 3（平面駐車場）
一般車両	P 4（平面駐車場）
展望ホール、国内貨物地区、海上アクセス地区	展望ホール駐車場
国際貨物地区、供給処理地区、給油地区	第 1 トラック待機場
第 2 ターミナルビル	P 5（平面駐車場）

【大津波警報発表時の避難場所】

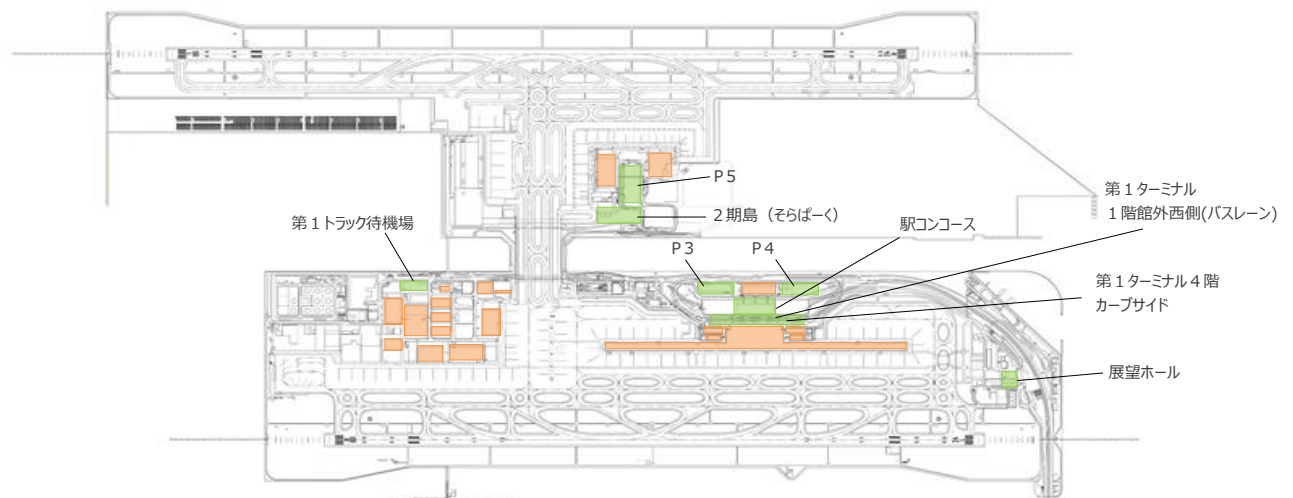
旧計画

避難対象者	館外避難場所
第 1 ターミナルビル一般エリア 1～3 階、国内線、ウイング、 エアロプラザ、ホテル、建設棟、空港駅・ 立体駐車場、航空会社ビル、国際貨物 地区、供給処理地区、給油地区	2 期島 (そばーく)
第 1 ターミナルビル 一般エリア 4 階 3 階国際線出国エリア(本館)	第 1 ターミナル ビル 4 階 カーブサイド
海上アクセス地区、 国内貨物地区、展望ホール	展望ホール 5 階デッキ

新計画

避難対象者	館外避難場所
第 1 ターミナルビル一般エリア 1～3 階、国内線、ウイング、 エアロプラザ、ホテル、建設棟、空港 駅・立体駐車場、航空会社ビル	駅コンコース
第 1 ターミナルビル 一般エリア 4 階 3 階国際線出国エリア(本館)	第 1 ターミナル ビル 4 階 カーブサイド
国際貨物地区、供給処理地区、 給油地区	2 期島 (そばーく)
海上アクセス地区、 国内貨物地区、展望ホール	展望ホール 5 階デッキ

関西国際空港全体図



【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
グループコーポレートコミュニケーション部 パブリックリレーション
Tel : 072-455-2201

関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports（ヴァンシ・エアポート）を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港（KIX）および大阪国際空港（ITAMI）の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016 年 4 月 1 日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018 年 4 月 1 日からは関西エアポート株式会社の 100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港（KOBE）の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西 3 空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社（関西国際空港および大阪国際空港の運営）

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北 1 番地 大阪市西区西本町一丁目 4 番 1 号（登記上）	株主	オリックス 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO プノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社（神戸空港の運営）

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港 1 番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO プノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックス株式会社について

オリックスは常に新しいビジネスを追求し、先進的な商品・サービスを提供する金融サービスグループです。

1964 年にリース事業からスタートして隣接分野に進出し、現在では融資、投資、生命保険、銀行、資産運用、自動車関連、不動産、環境エネルギー関連などへ事業を広げています。また、1971 年の香港進出を皮切りに世界 37 カ国・地域に拠点を設け、グローバルに展開しています。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、45 空港の開発・運営を行っています。同社の空港ネットワークを構成するブラジル、カンボジア、チリ、コスタリカ、ドミニカ共和国、フランス、日本、ポルトガル、セルビア、スウェーデン、イギリス、そしてアメリカ合衆国の空港には、合計で 250 社以上の航空会社が就航し、2019 年の旅客数は 2 億 5,500 万人にのびます。

ヴァンシ・エアポートは総合インテグレーターとしての専門知識を駆使し、空港の開発・資金調達・建設・運営に当たっています。またその投資力、国際ネットワーク、ノウハウを生かして、空港の運営と機能を最適化し、施設拡充や新規建設事業を行っています。

2019 年の連結売上高は 26 億ユーロ、グループ全体の売上高は 49 億ユーロ（関連会社含む）に達しました。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JT B、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、南海電気鉄道株式会社、西日本電信電話株式会社、パナソニック株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱 U F J 銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構